

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会（第2回）
2. 開催日時 平成28年4月13日（水） 19時00分から20時30分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員
神田哲司、宮島裕一、中島和人、北原照久、川瀬八十治、北原忍、北林重男、下澤政弥、関克義、森谷岩夫、橋爪和也、寺沢秀文、佐藤清、大島慎男、大原昭彦、澤泰一、保科義浩、湯澤徳晴、名取裕美
役場
町長、副町長、酒井課長、佐々木係長、池田
5. 議題（公開）
 - （1）これまでの経過について
 - （2）JR東海からの説明
 - （3）次回以降の開催について
 - （4）その他
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）
—
7. 傍聴人の数
4人
8. 会議資料の名称
 - ・第1回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会会議録
 - ・松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会資料（東海旅客鉄道株式会社）

9. 会議の概要

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) これまでの経過について
 - ・第1回会議録参照
- (4) 会議事項

J R 東海からの説明（資料 No.1）

- ・中央新幹線の概要
- ・大鹿村における工事概要
- ・主要地方道 松川インター大鹿線の改良計画
- ・松川町内の発生土置き場候補地
- ・スケジュール

【質疑応答】

第1回対策委員会会議録の内容説明（J R 東海より）

p 4 下段 埋め立て中の管理責任は、請負業者と J R 東海が負うこととなる。

p 5 上段 現状の埋め立て地の地質を把握する。盛ったトンネルの土が、滑らないことを設計で確認し、工事を行うことになる。現地盤に違う土を盛る場合、現地盤を段切りにして、トンネルの土を馴染ませるやり方もある。

（委員）

松川インター大鹿線での交通量の予測やピーク時の安全対策は。

（J R 東海）

環境アセスでは、1 日往復 1,736 台と計画した。1736 台は主に発生土の運搬車両である。その後、運搬車両のピークを減らすために発生土の仮置きを考え、運搬時期を調整する取り組みをすれば、1,350 台まで減らせると予想している。

車両の通行に関しては、ほぼ 100%松川インター大鹿線(大鹿村から渡場の交差点まで)を活用することとなる。渡場の交差点からどこを通るかは、発生土等をどこに持っていくかによって変わってくる。

具体的に何台が松川町内を通るかの詳細は決まっていないが、多くは、松川町内に入っていくのではないかと考えている。詳細な計画が決まったら委員会で報告していきたい。

工事用車両の通行時間帯については、詳細な計画が決まっていないが、できるだけ通学時間帯の通行の回避を第一とするが、できない場合は、誘導員の配置等の対策を行っていきたい。

(委員)

機械や資材の運搬ルート、松川インターから大鹿村に行く車両はどこを通るのか。交通事故の対策は。

(ＪＲ東海)

工事用車両全体の８割ほどが発生土運搬車両であり、その他２割が資材等の運搬車両であると予想している。請負業者がどこから資材を調達するかによっては、松川インターから入って来ることもある。工事車両の運行ルート、台数、車両の種類等は、詳細決まりましたら、委員会で報告していきたい。交通安全に対するソフト対策として運転手の教育を発注者としてＪＲ東海も指導していきたい。

(委員)

宮ヶ瀬橋が平成３２年に完成予定である。完成後通っていくと計画しているのか。

(ＪＲ東海)

発生土置き場の候補地が実現した場合、県道松川インター大鹿線の改良工事が概ね終了してから大鹿村の土を搬出したいと考えている。早くて、平成３０年の秋からと予想している。その場合、現在の宮ヶ瀬橋を使用することとなるが、大型ダンプはすれ違いうことができない道ということは認識しており、安全対策をしっかりとしていきたいと考えている。

(委員)

現在、中川村、豊丘村の道が良くなってきたため、県道伊那生田飯田線の一般車両の交通量が増えてきている。発生土運搬するようになれば、渋滞するのではないかと。県と協議して宮ヶ瀬橋工期を早める調整を検討してほしい。

福与地区も歩道が４０センチしかない場所もある。県にも拡幅をお願いしているが、是非交通事故対策として、検討してほしい。

(ＪＲ東海)

すべて県道なので県と協議して安全に通行できるようにしていきたいが、発生土置き場が実現することが前提である。発生土置き場の地権者の方との話し合い了解を得るのが先であると考えている。

(委員)

大鹿村から出てくる発生土の成分は、どの程度把握しているのか。

(ＪＲ東海)

自然由来重金属については、掘口については、ボーリング調査を行い調べたが、トンネルの奥などは、ボーリング調査では把握できない部分がある。工事で掘削した土は調査して基準を超える自然由来重金属が含まれていないことを確認してから発生土置き場に

持っていく。調査をせずに持っていくことはない。

（委員）

平穏な暮らしが担保されるように工事関係者と住民が諍いのないように請負業者に指導していただけるか。

（ＪＲ東海）

車のマナーの話になると思うが、リニアの工事車両とわかるようにプレート等を付けることを考えている。もし、マナーの悪い車両があれば、連絡いただければ請負業者を通じて指導する。マナーの悪い車両を出入り禁止にした例もある。

（町長）

安心安全の担保はどうするのか。

協定書は、結ばないとしていたが、申し合わせ事項として地元と結んでほしい。県とＪＲ東海との協議が多くなると思うが、しっかり協議をした上で情報共有をしてほしい。

（ＪＲ東海）

地元の方がどのような考え方、ご意見を持っているかしっかり聞かないといけないと思っている。また、運転手の教育や請負業者への教育もしっかりしていきたいと考えている。

環境影響に関する協定は、環境影響評価書が予測評価して作成したものであり、公表しているものであるため、改めて結ぶことはしないが、実際に何台車両が走るか、通勤時間帯をどうするか、道路改良、発生土置き場に関する事等、工事の具体的な話は、要望があれば地元と確認書のようなものを結んでいきたい。

県管理の道路を使うことが多い。ＪＲ東海で勝手に道路は作れないため、県とはしっかり協議をしていきたい。

（委員）

工事期間が長いので不安はある。何がおこるかわからない面もあるため、一つ一つ誠意を持って事業実施してほしい。何かあった場合の対策もしっかりたててほしい。

（委員）

工事関係者は、どこにどのくらいの人が集まるのか。

（ＪＲ東海）

山梨リニア実験線のトンネル工事例では、１つの現場に１００人程度である。作業員宿舎に入れば通勤での交通量はないが、地元業者の場合は、工事現場まで通勤を伴うことはある。

(5) 次回以降の開催について

第3回対策委員会を6月上旬に予定している。併せて、残土受入候補地の現地調査について、計画していきたい。調査をする場合、日中が良い。平日開催とするか休日開催とするか協議いただきたい。

(委員)

その前にすべての地権者に説明をして、合意を得てから現地調査を実施した方がいい。

(事務局)

J R 東海と協議をして、今後計画していきたい。

(J R 東海)

地権者の皆さんの説明が終わってから現地調査をしてほしい。別日程でお願いしたい。

(事務局)

第3回対策委員会は、6月上旬に実施したい。現地調査は、J R 東海が地権者説明終了後に再度計画していきたい。

委員の皆さんは、委員会の内容を各団体等でお話をしていただきまして、質問等ありましたら、事務局にご連絡ください。委員会としてもJ R 東海に繋いでいきたい。

(6) その他

(委員)

20年ほど前に前河原の砂利を取って、梅松苑の山を崩して前河原に埋めた際、県道18号線を毎日ダンプカーが通って非常に苦勞した。当時のデータを確認してほしい。

(事務局)

確認する。

(7) 閉会

以上